

# 競技ルール改正一覧（2022年→2023年）

『中学体育実技』Gakken

2022年12月末現在

(注) 下線部が改正の対象となったところ、赤い文字が新たに改正されたり追加されたりした内容です。

種目	ページ	改正点・旧ルール	新ルール
陸上競技	84	<b>【主なルール一覧】</b> トラック競技(競走競技) ●短距離走 ① 400mまでの競走種目では、割り当てられたレーンを走らなければならない。わざとレーン外を走り、それによって利益を得た場合は失格となる。	① 400mまでの競走種目では、割り当てられたレーンを走らなければならない。わざとレーン外を走り、それによって利益を得た場合は失格となる。 <b>曲走路で、レーンの左側の白線や緑石を1回(1歩)だけ踏んだり、越えたりした場合は失格とならない。</b> <b>〈解説〉</b> これまでは白線や緑石を踏んだり越えたりしても、実質的な利益がなく、他の競技者を妨害していなければ回数にかかわらず失格とはならなかったが、新ルールではそれが1回(1歩)だけ許され、2回目(2歩目)からは失格となることになった。実質的な利益を得たり、他の競技者を妨害した場合は、これまで通り1回(1歩)でも失格となる。
ハンドボール	131 146	<b>【競技場】</b> 競技場の図	競技場の図について、以下の注記を追加。 <b>【p.131 競技場の図】</b> ※国際大会やプロリーグでは、センターライン中央に、スローオフエリア(直径4mの円)が設けられる。 <b>【p.146左上 スローオフの図】</b> ※スローオフエリアが設けられることもある。 <b>〈解説〉</b> スローオフエリアは、国際ハンドボール連盟主催の大会やシニアのプロリーグでは必須となるが、国内大会では主催者の判断で決定する。スローオフエリアのコートを採用しない場合は、これまで通りセンターラインを通して引く。スローオフは、スローオフエリアのあるコートではスローオフエリア内から、スローオフエリアのないコートではこれまで通りセンターライン中央を踏んで行う。
バレーボール	171	<b>【競技場(6人制)】</b> 競技場の図の、チームベンチの前にある <u>コーチ レストリクションライン</u>	競技場の図から、 <b>コーチ レストリクションラインを削除。</b>
	187	<b>【審判の仕方】</b> 審判員, 主審, 副審, 線審の表記	<b>審判員(レフェリー)</b> <b>主審(ファーストレフェリー)</b> <b>副審(セカンドレフェリー)</b> <b>線審(ラインジャッジ)</b> <b>〈解説〉</b> 審判員, 主審, 副審, 線審の表記が片仮名に統一されたため、上記のようにかっこ付きの記載に変更。